

1月 安全指導

福生市立福生第三中学校
生活指導部

火災発生時の避難について

冬は空気が乾燥し、火災も起きやすい時期です。もう一度火災発生時の避難を確認しましょう。

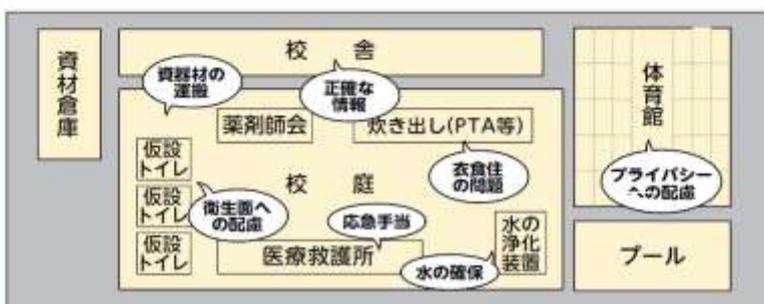
- 1) 煙を吸わないように、タオルやハンカチで鼻と口を覆う。
- 2) 煙や停電で避難経路がわからなくなったら、誘導灯や誘導標式を確認する。
- 3) 閉まりかけている防火戸やシャッターをくぐらない。防火戸を再び開けてみるか、シャッターの場合は付近に扉があるので、そこから避難する。
- 4) 煙で視界が利かないときは、床や壁に手を当て、這うように避難する。
- 5) 階段の踊り場や廊下の曲がり角で止まらない。
- 6) 濃煙で呼吸が苦しい場合は、床と家具の立ち上がりや階段の角などに新鮮な空気が残っている場合がある。
- 7) 煙が充満した階段は避難に使用しない。
- 8) むやみに走らない。
- 9) 深い呼吸は煙を多く吸い込んでしまうので、むやみに大声を出さない。
- 10) 一度避難したら、二度と建物の中に戻らない。
- 11) 避難が完了したら、その状況を消防隊へ伝える。



避難所の役割と中学生にできること

昨年の1月1日に能登半島地震が発生し、多くの被害が出たことは今でも様々なメディアで報じられています。そして現在でも避難生活が続き、高校生や地域住民による炊き出し等が行われており助け合いながら苦難をしのいでいるといえます。いざというときに命を守ることができたら、次に考えなければならないことは身近な人を助けること（共助）です。心身の発達によって様々なことができる中学生に期待されていることは、一体どのようなことなのでしょう。

学校が避難所になったら



(避難所の例)

学校が避難所になったとき、中学生にできることは何か考えてみよう。



助けられる人から助ける人へ

授業中に大きな災害が起きたとき、地域にいるのは幼稚園児・保育園児・小学生・中学生・高齢者です。中学生である皆さんに求められるものは、助ける力。詳しく学びたい人は「釜石の奇跡」で検索してみましょう。

